



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	オロッコ語研究のための資料
Author(s)	池上, 二良
Citation	北海道大學文學部紀要, 18(2), 29-55
Issue Date	1970-03-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33343
Type	departmental bulletin paper
File Information	18(2)_PL29-55.pdf



オロッコ語研究のための資料

池 上 二 良

オロッコ語研究のための資料

池 上 二 良

Materials for the study of the Orok language

Jiro IKEGAMI

本稿はカラフトのオロッコ語の口碑2篇の原文と日本語の逐語訳からなる。その原文は昭和33、34年北海道上尾幌および網走においてオロッコ族出身の佐藤チヨ (Napka) さんならびに北川五郎 (Gergulu) さんから録音したものである。¹⁾これを音韻記号で表記した。これらはなしを筆者にきかせ、その上その録音についての多くの質問にこたえてくれた佐藤さんと北川さんに心から感謝する。

1. バビリナイ (むかしばなし)
2. ゲオハート (ものがたり)

The writer gives the Orok texts of a tradition and a story which were transcribed in phonemic signs from the reproduction of magnetic tapes recorded in 1957 and 1958, together with a Japanese translation. On his Orok informants from Sakhalin see the English summary of the same writer's "Some specimens of the folk tales and songs of the Oroks" in *Minzokugaku Kenkyu*, 27/4, 1963.

1. *Bəbirinai*, a strong man who found a stronger one in Sakhalin,—a tradition (*təɬuluŋu*) described to the writer by Gergulu.
2. The adventures of *Geuxaatu*, a poor man who eventually acquired two wives and two towns,—a story (*saxuri*) told by Napka.

1) 昭和33, 41, 42年度文部省科学研究費による研究の一部である。オロッコ語の口碑資料についてはほかに下記の拙文を参照されたい。

J. IKEGAMI, Orok Texts (Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko, 17 昭和33年)

池上二良 オロッコ族の民話とうたの数例 (民族学研究27/4 昭和38年)

池上二良 オロッコ族の口頭文芸 (ユーラシア文化研究1 昭和40年)

1. バ ビ リ ナ イ²⁾

bəbirinəi	mapaačča	sii ³⁾	bəjəmbə	waami	məənə
バビリナイ	じいさんは	いつも	くまを	とって	自分の
uwweekki narree	əsi	bakkaa.	naridu	xuxalaxanda ⁴⁾	
上に	ひとを	みない。	ひとと	くみになって	猟に行ったけれ
məənə ⁵⁾	əččim	narree	əsini ⁶⁾	baarrə	čii
ども	自分の	ような	ひとに	であわない、	いつも
waam	čii	pulimi	naril	gəs	
とって	いつも	あるきまわって	ほかのひとたちと	一緒に	
čii	xupalam	pulum ⁷⁾	bəjəm	waam.	5
いつも	くみになって	猟に行って	あるきまわって	くまを	とって
čomjee	əsigdəən ⁸⁾	čogot	suun	naatain	
ながら。	そうして	いまや	そうして	南カラフトへ	
sindagačči ⁹⁾	waasinduu	suun	naatain	sindagat	purigə
来て	ワージから	南カラフトへ	来て	まだまだわかい	
narree	baaxan	taan	əsigdəən ¹⁰⁾	jəə suun ¹¹⁾	suunnee
ひとを	みつけた	そうな、	いまや	この	南カラフトのひとを

- 2) 北川五郎さんから昭和33年録音した。このむかしばなし(təəluŋu)を北川さんは Mikəəsi というじいさんからきいたよしである。この人は、父がキーリン人(エウェンキ人)、母がオロツコ人(Waalleetta 氏族)で、南カラフトで生れ、そこで一生を送ったよしである。バビリナイ(Bəbirinəi)はキーリン人、かれが自分よりさらに剛胆なオロツコ人に出会ったはなしである。
- 3) sii とときこえるのは cii《いつも》のこと(北川、佐藤による)。
- 4) xuxalaxanda とときこえるのは xupalaxanda《くみになって猟に行ったけれども》のこと(北川、佐藤による)。
- 5) 北川さん、佐藤さんの聴取による。
- 6) 北川さん、佐藤さんの聴取による。筆者には əni にきこえる。ただし佐藤さんのはっきり発音していないという。
- 7) pulim《あるきまわって》をあやまって発音した形(北川、佐藤による)。
- 8) 佐藤さんの聴取による。əsigdəən とときこえるのは əsigdəəl (=əsigdəələkkə《いまや》)のこと(佐藤による)。以下同様。しかしこの録音をききなおした北川さん自身はこの部分は ittəjini《かれがみると》ときこえるが、これは itəxəni《かれがみた》(ここでは「そのわかい人をみた」の意)のあやまりであるという。
- 9) waasi は黒竜江右岸の河口にちかいところの地名。間宮林蔵「東鞆紀行」巻之下にも「ワーン」とある。
- 10) 佐藤さんの聴取による。
- 11) suun と言ってつぎに suunnee (=suunneepəni)《南カラフトのひとを》と言いなおしている(北川による)。

- dorojjeela¹²⁾ naanneepani. čogočč maparil
北カラフトの方で 土地のひとを。 そうして じいさんたちが
- 10 tælunučixət taan. gəsə¹³⁾ čak tælunuččiduči
むかしばなしをした そうな。一緒に そこから むかしばなしをして
- pərgəxən taan. naa bəjəmbəni waaguri
いるとき かれはかんがえた そうな。「陸の けだものを とることは
- purəndu waagurii dələndu¹⁴⁾ waagurii anu xagju
やまで とることより 墓で とることより えーとあれ くまのあ
- dooduni waaguri manga um tælunučixən
なの なかで とることが むずかしい」と 言って はなしをした
- taan bəbirinai. čogot uččin taan tarinne¹⁵⁾.
そうな、バビリナイが。 そうして 言った そうな、 そのひとは。
- 15 ə xagju dooduni biiləkkə kətuddə goči.
「ほう くまのあなの なかに おいてとは あんまりだ ね。
- omo dooduni bii səbdələ bimiddə¹⁷⁾ oon taani
巢の なかで なら らくで あることにも なる だろう。」と
- uččin taan. purəndu waagurigdaa taak tučči tari¹⁸⁾
言った そうな。「やまで とることなら らくに うごく それは
- manga billə uččin taan. čogot bokkon
むずかしい だろう」と 言った そうな。 そうして はらが
- orkilə oččin taan bəbirinai. ədədə jənnepə
たった そうな、 バビリナイは。 「うむ このひとを
- 20 xoon purəndu itəxəmbičee purəndu baaxəmbičee
どうかして やまで みたいなあ。 やまで あいたいなあ。

12) dorojjeela は《北カラフトまたはカラフト西海岸の方で》であり、ここは suunjeela 《南カラフトの方で》のまちがいだらう (佐藤による)。

13) ここは čak でなく čadu 《そこで(場所)、そのとき(時間)》とあるのがいいという (北川、佐藤による)。ただしこの čadu は北川さんにおいては場所の意、佐藤さんにおいては時間の意である。

14) 巫人に憑るわるい神霊は人を殺し、動物に化身して墓にその死体を食いに來ることがある。墓で見張っていてその動物をうちとる意。(佐藤による。)

15) そのわかいひとの意 (北川による)。

16) ここは omo 《とりの巢、きつねのあな》でなく、xagju 《くまのあな》とあるのいいという (北川による)。

17) oon は意義不明。

18) beje 《くま》をさす (北川、佐藤による)。

xoonee bii narigaa ¹⁹⁾ per mərəčixən taan
うでまえがどのくらい な ひとか。」と かんが おもった そうな

əsigdəə. jənneep čak čii baajiččeelami xaiddəə
いまや。 「このひとに どうしても あうようにしよう、 なにかの

ərundun. ga čii tamaččuu čii bimjee ²⁰⁾ əsigdəən
ときに。」 さて ずーっと それから ずーっと いて いまや

dəəbə ilaamba anan bigəčči ga čanneep baaxan taan
二 三 年 いて さて そのひとに あった そうな

əsigdəələ suun naatai sindagačči ¹²⁾ dorojjeela. ²⁵⁾ purigəə 25
いまや、南カラフトへ 来て 北カラフトの方で。 まだまだわかい

nari. ga anda buu bəjəmbəə sirəmbə
ひとだ。 「さあ あんた われわれは くまや 野生となかいを

anu bəjəmbəə sirəmbəə waandaum aja.
えーとあれ くまや 野生となかいを とりに行くと いい。

məədəəwwəəda. waaji ²¹⁾ bəiči ²²⁾ əs xupallaaji
かわうそをもな。 とりに 猟をするために あんたはくみになって猟

 mindu gəsə. ga xupalaxan
に行かないか、わしと 一緒に。」 「さあ くみをくんで猟に行っても

aja taan. ga ŋənneesu. ga orokč'in 30
いい だろう。 さあ 行こう。」 さて バビリナイは つれて行った

taan əsigdəələ. ga čii ŋənəməri čii ŋənəməri
そうな いまや。 さて ずーっと 行って ずーっと 行って

duga duga ŋənneeči. orokto poolee ²³⁾ oččini. bədəl beeni.
夏 夏 かれらは行く。 くさは あおく なった。七 月だ。

bədəl beelani ŋənəəč. bəjə jawal taldaan. čogot
七 月に 行った。 くまの 発情期の 最中だ。 そして

19) per (=pərgəxəni 《かれがかんがえた》) と言いかけてつぎに mərəčixən (=mərəčixəni) と言いなおしている。pərgəxəni でもいい。(佐藤による。)

20) 佐藤さんの聴取による。筆者には s がきこえない。

21) bəiči (=bəičibuji 《自分が猟をするために》) は 北川さんの聴取による。しかし佐藤さんには əsi 《いま》ときこえるという。

22) 北川さん、佐藤さんの聴取による。

23) bədəl beeni は北川さんによれば《7月》であるが、佐藤さんによれば《11月》である。

- ²⁴⁾
 ɳənəgəččeeri bəjə xulləənnini²⁵⁾ taldaan. oroktoo
 行って くまが 土をほりおこす 最中だ。 くまが くさを
- 35 ²⁶⁾
 dəpči. čogočči itəxən taan. geeda əəktə
 食う。 そして みた そうな。 一匹の めすの

 bəjə xulləənniwən itəxən taan bəbirinai.
 くまが 土をほりおこすのを みた そうな、 バビリナイが。
- jaandagat garpaxan²⁷⁾ əəktə bəjəmbə
 かくれてしずかにすすんで行って 射とめた、 その めすの くまを
- xaus. čorroo xoldokkeenidda geeda
 一回でごろっと。 するとすぐ それのわきからも 一匹の
- xaiddaa jiini xusə bəjə. čikčiktə tuuxəni
 なにより大きい おすの くまが でてきた。 針葉が おちたのが
- 40 ojuduni tuuxəni təpəmji²⁸⁾ biin. sinaktan səəm
 その上に おちたのが そのまま ある。 その毛が まっかに
- očč kadaraa mastaa daa bəjə. čogot²⁹⁾ ə čaa
 なった 大きな 大変 大きい くまだ。 そして いまや その
- tuuxə bəjəttəi bučči bəjəttəi sindamid³⁰⁾ iixənjeepəni
 たおれた くまへ 死んだ くまへ 来るや 矢の はいった方を
- nəəxənjeepəni³¹⁾ ɳooxalamid jee puipum iixənjeepəni
 でた方を かぐとすぐ また うらがえして はいった方を
- ɳooxalamid³¹⁾ poktokki³²⁾ čuul sindaxan taan.
 かぐや あとを まっすぐ 来た そうな。

24) 北川さんは ɳənəgəččeeri のあとに ittəəjiči 《かれがみると》の語を入れるのがいいという。

25) くろゆりの根 (karka) やべこのちちの根 (nolo=jolo) を食うためにほり出す意(北川による)。

26) aasi 《ふき》, xapa 《すいば》などのくさを食う。くまがくろゆり、べこのちちの根やこれらの植物を食うのは、発情期の7月だけで、あとはさかなを食うという。(北川による)。

27) čai は čaa 《その》をあやまって発音した形(北川、佐藤による)。

28) くまの毛が秋は落葉松の針葉の枯葉のいろそっくりで、針葉の枯葉がその上におちたままあるようだの意(北川による)。

29) この ə は佐藤さんは əsigdəə 《いまや》か, əri 《これが》(ここではくまの意)か、あるいは jələ 《ここへ》かという。

30) iixənjeepəni と言ってつぎに nəəxənjeepəni と言いなおしている(北川による)。

31) ɳooxalamid (da) は ɳooxilamid (da) をあやまって発音した形(佐藤による)。

32) poktokki は矢のきたあとの意(北川による)。

- pukčitəxəni. itəxəni ča bəbirinəipə³³⁾ bəbirinəi.³⁴⁾ 45
 かかって行った。それがみた、その バビリナイを バビリナイか。
- ənənəə pukčiččeen³⁵⁾ pukčiččeeni čadu uččin³⁶⁾ taan.
 「あれ かかって来る。かかって来る。」 そのとき 言った そうな。
- xoldonduni iličīn tar purigəə nari. əə
 かれのわきに たっていた、その まだまだわかい ひとは。 「ほう
- andəə ča kərəktəənee andəə ča xosiktaanee
 あんた あの 歯を あんた あの つめを みろ」と
- unjinində. anda ča xosiktaanee kərəktəənee.
 言うんだと。 「あんた あの つめを 歯を。」
- gossinda bəbirinəi. ər xama 50
 にくらしく思うんだと、 バビリナイは。 「このひとは どんな
- xamačee bi nari³⁷⁾ ərənəət oinigaa mərəči³⁸⁾ mənji
 どんな で ひと このように するののか」と おもって 「自分を
- minjee inəsin billə mərəpiččin taan.
 わしをば わらっているの だろう」と ひよっとおもった そうな。
- bəbirinəi jəl sindaukkaāčči toogo ojottoi³⁹⁾
 バビリナイは ここへ 来させて たおれた木の 上へ
- tərənələget gidad bəpiččin taan. gidaži bəpikkāčči
 ふんばって やりで かまえた そうな。 やりで かまえて
- gidalaxan taan ataptai. čadanandaa⁴⁰⁾ tar 55
 さした そうな、 真正面からむかって。 そのときまでも その
- jeen čii ilisini⁴¹⁾ oorop mangaruni. čogot
 あいばうは ずーっと たっている、 さっきの 剛のものは。 そして

33) bəbirinəipə でなく、bəbirinəiwə がいい (北川による)。

34) bəbirinəi は言いあやまり (佐藤による)。

35) 北川さん、佐藤さんの聴取による。なおここはバビリナイの言ったことば (北川による)。

36) そのわかい人が以下のことばを言った意 (北川、佐藤による)。

37) 佐藤さんは bi nari でなく、nari bimi 《ひとであって》とあるのがいいという。ただしこの録音をききなおした北川さん自身はこの部分が nari bimi と きこえるという。

38) mənji と言ってつぎに minjee と言いなおしている (北川、佐藤による)。

39) ojottoi ときこえるのは ojotoini のこと (北川、佐藤による)。

40) čadalaniddaa のあやまり (北川による)。

41) 末尾の p は北川さん、佐藤さんの聴取による。

- bəjəjunigdəə toogo ojotoin tuum
かれの相手であるくまは くちてたおれた木の 上へ たおれかかつ
- tuuxəni. ulingad gidalexan bəbirinəigdəə. čogot
てきて たおれた。 うまく さした, バビリナイは。 そして
- jeetakki itəduxən taan. jeeni
自分のあいぼうの方を ふりかえてみた そうな。かれのあいぼうは
- 60 gidab xaučimee biin. naatai xaurini.
自分のやりを 拭いて いる。 地へこすりつけて 拭いている。
- čogot bəjəjutəkki itəxən taan.
そして バビリナイは 自分の相手であるくまの方を みた そうな。
- dəə xoldokkeeni bəjə səəksən xəjjeeni. aanjee xoldokkeeni
両 がわに くまの 血が ながれている。 みぎ がわに
- geeda gidalarraa dəunjee xoldokkeeni geeda gidalarraa oččin
一度 さし ひだり がわに 一度 さし した,
- tarinnee ⁴²⁾ča purigəndumə. ⁴³⁾ča məgdənji əččini ittəə.
そのひとが その わかい方が。それを まるきり かれはみなかった。
- 65 tar suu naaduni mənəə uwweek narree baaxanda
かれは 南カラフトで 自分の 上に ひとを みつけたと,
- tari bəbirinəi naa narilan. xaikkid
その バビリナイは 方方の土地の ひとのなかから。 そこいら中
- kiilləəmbə xərelixən jökkoo
キーリン人のところを まわったけれども ヤクト人のところを
- xərelixəndəə ⁴⁴⁾ma manboo xərelixəndəə
まわったけれども オ オルチャ人のところを まわったけれども
- mənəə uwweek biiwə tənneə geedanəepamali
自分の 上に あるひとを たった ひとりだけ
- 70 baaxani. čalaa biččin tari təəlunən.
みつけた。 そこまで だった, かれの いいつたえは。

42) ča は tari 《その》をあやまって発音した形 (佐藤による)。

43) ここの ča (=čawa) 《それを》はくまにやりをさすことをの意 (佐藤による)。

44) ma と言いかけてあらためて manboo と言っている (北川, 佐藤による)。

2. ゲ オ ハ ー ト⁴⁵⁾

daa	xajilaččee	ilaa	dupči	xotto	baljixanindaa.	
ダー	ハジラッチェー,	三本通りのある	まちが	うまれたと。		
tari	xotto	sooduni	geeda	oroktom	duxu	bičč'inindā.
その	まちの	はずれに	一軒の	くさぶきの	いえが	あったと。
tar	duxu	dooduni	geeda	⁴⁶⁾ geuxaatu	bičč'inindā.	
その	いえの	なかに	ひとりの	ゲオハートが	いたと。	
oroktoo	pusirraa	oroktoji	xudasirraa	dəpturrə	moo	
くさを	刈り	くさを	あきなって	たべたり	まきを	
moolissii	mooji	xudasirraa	dəpturrə	om	bičč'inindā.	5
とり	まきを	あきなって	たべたり	して	いたと。	
tar	oroktom	duxu	bookkeen	ilaa	⁴⁷⁾ təilə	tuuru
その	くさぶきの	いえの	そとに	三	かかえある	はしらが
bičč'inindā.	tar	tuuru	təkkəkkeen	oondoi	toroočixandaa.	
あったと。	その	はしらの	ねもとに	あおむけに	なっていたと。	
inən̄i	ajan	inən̄idu	geuxaatu	uisəi	kargaxanda.	
一番いい天気	の	日に	ゲオハートは	上の方を	みわたしたと。	

45) 佐藤チョさんから昭和32年録音した。このものがたり(saxuri)は佐藤さんが自分の母親からきいたよしである。本来はオルチャ人のはなしだろうという。しかしおそらく他民族からツングース族へ入ってツングース人によって変化を加えられたものであろう。このはなしにはツングース族以外の他民族の文化の多くの要素が含まれている。このものがたりのギリヤーク族におけるものは高橋盛孝「樺太ギリヤク語」(昭和17年)140—150ページにのる。

46) geuxaatuとは《貧賤のもの、こじき》である。人のわるぐちにもつかう。ただしこのものがたりに出てくる geuxaatuは無慾であり滑稽味も感ぜられる。満州語 gihoto《こじき》に対応する語。

47) これは、手のようにえだをのこし、それから下は樹皮をはいて立てた木(からまつやえぞまつ)である。そのえだには木幣(illau)をつける。上部には葉のついたえだをのこし、東面に人のかおをはってその上方に木幣の一種(ibuski illau)をつける。妖怪(amba)の鳥が人間のからだにやすむと人間は病気になるからこのはしらをたててとまらせやすませる。このはしらは人がはじめて巫者となったときその家のまえにたてるが、また病人があるとその家のまえにもたてる。この語はオルチャ語 turu《столб》(Т. И. Петрова, Ульчский диалект нанайского языка, 1936), エウエンキ語 туру《столб》(そのネルチンスク方言, ゼヤ川方言, 興安嶺方言で《шаманское дерево, вершинной доходящее до неба》)(Г. М. Василевич, Эвенкийско-русский словарь, 1958)などに対応する。

- geeda gasa daajini gasa sinjeenindaa. sələmə
一羽の とりのうちでも一番大きい とりが くるんだと。鉄でできた
- 10 ⁴⁸⁾ koori dalu jiin gasa duučikkujī
コーリ という 倉 ほどの とりで、 さきにかな具のついた米にあ
なをあける棒の くちばしがあり 刀の つばさがあり やりの
xudurəlluu. čaa tuurudu dooxonindaa. tari gasa
尾羽がある。 その はしらに とまったと。 その とりの
attanduni əəktə ajani əəktə biinində.
背に おんなのうちでも一番美しい おんなが いるんだと。
geuxaatoo uččinində əri gasa mimbee xaikkiddəə
「ゲオハートよ、」と 言ったと、「この とりが わたしを どこへ
15 gājjiwani ulingaji itəčissəəri.
つれてかえって行くかを よく これからみていてください。
mini amittaiw ənittəiw aldurissaari. dəunjee
わたしの 父と 母へ あとでしらせてください。」 左の
isalkeeni aisi ⁴⁹⁾ mөөn bəter soxoondaa. aanjee
目から 金の 水を ぼろぼろおとして ないたと。 右の
isalkeeni mənu mөөn bəter sojoonda. tari
目から 銀の 水を ぼろぼろおとして ないたと。 その
gasa guulinduxəninində. suun agbinjiwan təngəə
とりが とびたってかえって行ったと。 日の 出る方へ まっすぐ
20 ɳənneenində tar gasa. čaa tuurutai muktam čii
行くんだと、 その とりが。その はしらへ のぼりながら ずーっと
kargeendaa geuxaatu. tuuru sugəmbəni
ながめていると、 ゲオハートは。 はしらの こずえに
aapčinnii gaaji jiinii oččinindaa. nəəčigən jiinii
とどくかとどかぬに からず ほどに なったと。 ことり ほどに
omi boo saŋakkeen iiduxəndə. čadoo
なって 天の あなへ はいってかえって行ったと。 そのとき
doonduxanda geuxaatu. dəpčin xaiddəə anaandaa.
思い出したと、 ゲオハートは。 たべるものが なにも ないんだと。
25 tuuduxəninində. xagjim akpaččinindaa. čimanaan dəə
おりてきたと。 たべずに ねたと。 あくる日 ふたりの

48) ものがたりにでてくる鳥。

49) なみだの意 (佐藤による)。

オロツコ語研究のための資料

janjee gaanixačindaa geuxaatumba. geuxaatoo ədə
役人が 迎えに行つたと、ゲオハートを。「ゲオハートよ 王さまが

gaannooččini. ədəndu xaiddəə baitala
迎えによこした。」 「王さまに なにも わるいことをしたことが

anak uččininədə. əməčigə durunjii əməčigə
おれはない」と 言ったと。 「こんな すがたで こんな

tətuğəjjii xoon ɲənnəewee uččində.
きもので どのようにして おれは行くか」と 言ったと。

ədəttəi əsiw ɲənnə. ɲənuğəčində. 30
「王さまのところへ おれは行かない。」 かれらはかえつたと。

gočiddaa dəə janjee sindaxačindaa lautalu janjee.
までも ふたりの 役人が きたと、 刀をもった 役人が。

geuxaatoo ədə gaannooččini. ee əsiw
「ゲオハートよ、 王さまが 迎えによこした。」 「いやだ、おれは

ɲənnə uččininədə. dəə ɲaaladuni daparraa uippə
行かない」と 言ったと。 両 手を つかむと もち上げたまま

gadugačindaa naadu əməɾ taamboonda. ədə duktain
つれかえつたと、 地を ふませずに。 王さまの いえへ

iigəəčində. bultai meexuraččindaa geuxaatu. 35
はいらせたと。 一生懸命 叩頭したと、 ゲオハートは。

pəəjəb səəks saar səəks
自分のひたいに 血が さっと一面に流れるほど 血が

saar meexuraččininda. geuxaatoo
さっと一面に流れるほど 叩頭したと。 「ゲオハートよ、

xai baitaan baagat meexuraččisee uččindəə
どういふ わるいことを して おまえは叩頭したのか」と 言ったと、

ədə. baljixanduk əsidələ boodu bimi xaiwaddaa
王さまは。「うまれたときから いままで そとに いて なにか

əččisi ittəəji uččininda. xaiwaddaa əččimbi ittəə 40
おまえはみななかったか」と 言ったと。 「なにも わしはみませんで

uččininədə. anaa xaiwaddaa itəxəsi billə
した」と 言ったと。 「いや、 なにか おまえはみた だろう」と

uččininədə. geeda gasa daajini gassaa
言ったと。 「一羽の とりのうちでも一番大きい とりを

itəxəmb uččininədə. duučikkuji
わしはみました」と 言ったと。 「氷にあなをあける棒の

- xoxooluwwə lautanji xasaluwwə gidaji xuduraluwwə
くちばしがあり 刀の つばさがあり やりの 尾羽がある
- 45 sələmə koorree dalu jiiwəni gassaa itəxəmb
鉄でできた コーリ という 倉 ほどある とりを わしはみました」と
- uččinində. tari gasa attanduni əəktə ajani
言ったと。 「その とりの 背に おんなのうちでも一番美しい
- əəktə biččini uččinində. geuxaatoo mimbee
おんなが いました」と 言ったと。 『『ゲオハートよ、 わたしを
- əri gasa xaikkiddə gačjiwani ulingaji
この とりが どこへ つれてかえって行くかを よく
- itəčissəəri. mini amittaiwwee ənittaiwwee
これからみていてください。 わたしの 父と 母へ
- 50 aldurissaari uččini uččinində. aanjee
あとでしらせてください。』と 言いました」と 言ったと。 「右の
- isalkeeni mənū mēəni bəter soŋoxoni
目から 銀の 水を ぼろぼろおとして なきました」と
- uččinində. dəunjee isalkeeni aisi mēən bəter
言ったと。 「左の 目から 金の 水を ぼろぼろおとして
- soŋoxoni. tari gasa suun agbinjiwan tənŋə
なきました。 その とりは 日の 出る方へ まっすぐ
- ŋənəxəni uččinində. čaa tuurutai muktam čii
行きました。』と 言ったと。 「その はしらへ のぼりながら ずーっと
- 55 itəčixəmbi. tuuru sugəmbəni aapčiwii
わしはみていました。 はしらの こずえに わしがとどくかとどこかぬに
- gaaji jiinii oččini uččinində. nəčigən jiinii
からす ほどに になりました。』と 言ったと。 「ことり ほどに
- omi boo sanakkeen iiduxəni uččinində.
なり 天の あなへ はいってかえって行きました」と 言ったと。
- ədə jilibi pəisəi tugbugəčči bojjeenindaa.
王さまは あたまを 下へ ふせて 考えているんだと。
- geuxaatumba čəsi daaji jaŋgee opooččindaa. geuxaat
ゲオハートを たいした 大 将に したと。 ゲオハートの
- 60 pəjjeekkeeni geed jaŋgee biinində. nada tangu saldaaw
下に ひとりの 将校が いるんだと。 七 百人の 兵隊を

bargixandaa. səgdəm⁵⁰⁾ poro səgdəm pulisi poroxoottoo
用意したと。飛んで 汽船 飛んで 行く 汽船を

andupooččinindaa sələm poroxoottoo. čimanaa nənneečindəə.
つくらせた、鉄製の 汽船を。 あす かれらは行くんだと。

čimanaan nənneečində. čii nənneečində. ta gasa
あくる日 行ったと。 ずーっと 行くんだと。 その とりの

poktokkeeni čii uisəi kaapamar čii nənneečində.
通ったあとを ずーっと 上へ のぼって ずーっと 行くんだと。

boo sanŋaan aaptugačindaa. geuxaatu mæpi xorkoji⁶⁵
天の あなに ついたと。 ゲオハートは 自分を つなで

taldaak uigəekkəčči tugbəəččinindəə pəisəi. čii
まんなかを しばらせて おろさせたと、 下へ。 ずーっと

tukkinində. naawan aaptuxandaa. ilaan jaadara pokto
おりて行くんだと。 地に ついたと。 みつ またの みちが

biinindəə. buni baaruni pulipur poktuu suun baaruni
あるんだと。 黄泉の 方へ 行く みちと 日の 方へ

pulipur poktuu amba poktoni biinindəə.
行く みちと 怪物の みちが あるんだと。 怪物のみちは

⁵¹⁾
pənəndulə bii doorima. tar doorima təkənduni geeda⁷⁰
ひざまで ある みちだ。 その みちの 起点に ひとつの

mugdəə biinindəə. čaa mugdəək uixəndəə xorkonubi.
木の株が あるんだと。 その 木の株へ しばったと、 自分のつなを。

uigəčči nənneenindəə. čaa amba poktokkeen čii
しばって 行くんだと。 その 怪物の みちを ずーっと

nənneendə. geed duxu tawan səgdədəə
行くんだと。 一軒の いえの いろり火が けむりをたてて

biinindəə. čaa duktai iixəninđə. činagəənnee
いるんだと。 その いえへ はいったと。 ずーっとまえに

noon itəxəni əəktə biinindəə. geuxaatoo⁷⁵
そのかれが みた おんなが いるんだと。 「ゲオハートよ、

xaiw xandam sinjeesee uččinindəə aldoo
なにを しに あなたはくるんですか、」と 言ったと、 「あたら

50) səgdəm poro と言いかけてあらためて səgdəm (=səgdəmi) pulisi poroxoottoo 《飛行船》と言っている (佐藤による)。

51) そのみちが地面より低く、深さがひざまであるの意 (佐藤による)。

- ulisebbii aldoo girapsabbii irami. geuxaatumba
自分のにくと あたら 自分のほねとを はこんで。」 ゲオハートで
- bokkombo čakkaa dəpəəččininində. amba ələ issini
はら 一杯 たべさせた。 「怪物が もう くるのが
- laxa uččinində. issoojini ər naa gəəm
ちかい」と 言ったと。 「かえってくれば この 地が みんな
- 80 tuččini uččinində. əri duxu gəəm tuččini.
うごきます」と 言ったと。 「この いえが みんな うごきます。
- tawa taldaakkeeni agbinduŋjini
たき火の まんなかから かれがあらわれてもどってきます。」と
- uččinində. aanjee xawanikki narree geedanneed
言ったと。 「右の わきの下へ 人間を ひとり
- gaŋjini uččində kapilagačči. dəunjee xawanikki
運んできます。」と 言ったと、 「はさんで。」 「左の わきの下へ
- 52) geu soondoomboni kapilagačč gaŋjini uččinində.
しかの 子を はさんで 運んで来ます」と 言ったと。
- 85 isupee kəikkəi nilau tawatai uungisini
「かえってきたら まっぱだかで 火へ あたっています」と
- uččinində. čadu bii unittə. mimbee
言ったと。 「そのとき わたしが 言いましょう。 『わたしを
- waabuŋji gaattapeeddaa waagumidda ajjə
殺すために つれに行ってきたなら 殺しても いいし
- asilabuŋji gaattapeeddaa asilaumidda ajjə. ər
妻にするために つれに行ってきたなら 妻にしても いい。 これ
- jiin gorolonjini xaibuŋji buisigə
ほど ながく なにするために あなたはとっておくのですか。」と
- 90 unittə uččinində. dəənnnee gəsə obuddoori
言いましょう。」と 言ったと。 「『ふたり 一緒に なるために
- jilleesi itəiččeesuu.
あなたのあたまを しらみがいないかどうか さがしましょう。
- čiktəddə waarin taan. ər jiin gorolonjini
しらみだって ひとを殺す でしょう。 これ ほど ながく

52) けだものの一種(佐藤による)。オルチャ語の giu «a roe, a doe (Cervus copreolus)» (P. Schmidt: The language of the Olchas, 1923) やゴリド語 гиу «козуля» (Т. И. Петрова, Нанайско-русский словарь, 1960), 満州語 gio «麝」の語から推してこの geu もかかる種類のしかであろうとみられる。

- pulisisi unittə
あなたは歩きまわっているんですよ。』と 言いましょう」とと
- uččinindəə. amba narree waakkuni lautan biini
言ったと。「怪物の 人間を 殺す道具 である 刀が あります」と
- uččinindəə. čaa lautam dapagat sirissaari. 95
言ったと。 「その 刀を とって あとでかくなさい。
- jilleeni itaiččeeduwwee kooto liim
そのあたまを わたしが見にかかると ぐうぐう いびきをかいて
- akpanjini uččinindəə. akpakkutannee utumukkeen
それはねます。」と 言ったと。 「ねたら そのうなじから
- sægde⁵³⁾ sinakta nəerini uččinindəə. tari sinakta naatai
赤い 毛が 出ます」と 言ったと。 「その 毛が 地を
- bagbalautannee xaus akpanjini uččinindəə. tari
突いたら ぐっすり かれはねます」と 言ったと。 「その
- sinakta naatai bagbalautannee geuxətu um 100
毛が 地を 突いたら 『ゲオハート』と 言って
- xəwəččinittə. kus peččərreə sinaktaa pəŋ
よびましょう。 さっと はねおきて 毛を ぶつたり
- xoopulassaari uččinindəə. čaa sinaktaa tuttaupee
きりなさい。」と 言ったと。 「その 毛を にがしたら
- baljigasi əri uččinindəə. daajiji
あなたのうまれたいのちは これだけです」と 言ったと。 「大きく
- əjjee ərisi uččinindəə. geuxaatumba daixanindaa
いきをしなように」と 言ったと。 ゲオハートを かくしたと、
- amba narree waakkuni lautam dappaukkačči. tədəddəə 105
怪物の 人間を 殺す道具 である 刀を とらせて。 本当に
- amba issinindaa. naa tuččininda. duxu
怪物が かえってくるんだと。 地が うごくんだと。 いえが
- tuččininda. tawa taldaakkeen agbinduxanindaa.
うごくんだと。 たき火の まんなかから あらわれてもどってきたと。
- aanjee xawanikki narree geedannee gaduxanindaa
右の わきの下にひとをひとり 運んできたと、
- kapilagačči. dəunjee xawanikki geu soondoombon
はさんで。 左の わきの下へ しかの 子を

53) この赤い毛がこの怪物のいのち (ərgə) (佐藤による)。

- 110 kapilagačči gaduxanindaa. æktə kus peččərroə pəŋ
 はさんで 運んできた。 おんなは さっと はねおきて ぶつ
 pəŋ xoorroo oromuččataini čauk čauk iičixənda.
 ぶつ きるとすぐ 怪物の釜へ どぶん どぶん いれたと。
 xuruxənində. ⁵⁴⁾ ittottotai urigaat ⁵⁵⁾ mokčom irum
 にえたと。 木製の横長の容器へ 盛って まえかがみに ひいて
 iraxənindaa. ⁵⁶⁾ gaksee pulčikki girapsaan nəgudum
 かの女はもって行つたと。 片方の ほほへ ほねを 突き出して
 dəpčinində. ⁵⁷⁾ dəptum xojixaninda. mokčom irum
 たべるんだと。 たべ おわつたと。 まえかがみに ひいて
 115 xəənixəndə ⁵⁸⁾ boo baaruni. kəikkəi nilau
 かの女はあけに行つたと、 そとの 方へ。 まっぱだかど
 uungisində tawatakki. čadu æktə
 あたっているんだと、 自分の火へ。 そのとき おんなは
 uččinində. mimbee xaibuji gaattagačči
 言つたと。 「わたしを なにするために つれに行つて来て
 buisisigə uččinində ər jiin
 あなたはとっておくのですか、」と 言つたと、 「これ ほど
 gorolonjini. asilabuji gaattapeeddaa asillaumidda
 ながく。 妻にするために つれに行つて来たなら 妻にしても
 120 ajjə waabuji gaattapeeddaa waagumidda ajjə.
 いいし 殺すために つれに行つて来たなら 殺しても いい。
 dəənnə gəə obuddoori jilleesi
 ふたり 一緒に なるために あなたのあたまを しらみがいらないかど
 itəiččeesuu. čiktəddə waarin taani.
 うか さがしましょう。 しらみだつて ひとを殺す でしょう。
 ər jiini gorolonjini pulisisi.
 これ ほど ながく あなたは歩きまわっているんですよ。」
 jilibi itəittəuččinində. kooto liim
 自分のあたまを さがさせたと。 ぐうぐう いびきをかいて

54) itto 木製の横長の容器。moni や musi という料理をつくるため槌果やくろ
 ゆりの根やすじこやさかなのかわをつぶす調理具。

55) 肩につなをかけてまえかがみにひく意 (佐藤による)。

56) 肉をもつて行つた意 (佐藤による)。

57) itto をひいての意 (佐藤による)。

58) ほねをあけに行つた意 (佐藤による)。

akpaččininindaa. utumukkeen sægðə sinakta nəərinində. 125
ねたと。 そのうなじから 赤い 毛が 出るんだと。

naatai bagbalaxandaa. geuxəətu uččinində.
地を 突いたと。 「ゲオハートよ」と 言ったと。

xaikkaa sok sop tæduxəndə. sook sook
「なんだあ」と あわてて おきなおったと。 くん くん

ŋoosinda. iiməu beje puun biin
かいていると。 「いきのいい けだものの においが する

billə uččinində. anakaa uččinində. sula
ようだ」と 言ったと。 「いいえ」と 言ったと。 「のみが

pəččənesijini olonosiwi. sini 130
なんどもはねるので わたしはおどろいているのです。 あなたが

ooron gadugas beje puun əsi bee. xaiddaa
さっき 運んで来た けだものの においで ないですか。 なにも

anaa uččinində. gočiddaa akpanduxandaa.
ありません。」と 言ったと。 またも それはねたと。

jilleen itaiččeenində. əktə ketəxə ketəxə
そのあたまを 見にかかるんだと。 おんなは ぶすん ぶすん

niččeenindaa. gočiddaa kooto liim akpanduxandaa.
つぶすんだと。 またも ぐうぐう いびきをかいて ねたと。

utumukkeen sægðə sinakta nəjjinində. naatai 135
そのうなじから 赤い 毛が 出てくるんだと。 地を

bagbalaxaninda. geuxəət uččinində. geuxaat
突いたと。 「ゲオハートよ」と 言ったと。 ゲオハートは

kus pəččərreə čaa sinaktaa pəŋ xoopulaxanindaa.
さっと はねおきて その 毛を ぶつと ぎったと。

oromuččajini ələgəəččeeri gəəm dəgjiğəčində. čaa
怪物の釜で 煮てから 全部 やいたと。 その

əktəndəə ŋənničində. čii ŋənəm xorkoŋub
おんなと かえるんだと。 ずーっと 行って 自分のつなが

biiwən aaptuduxandaa. tari əktə uččinində. 140
あるところに かえりついたと。 その おんなは 言ったと。

sii uugu osuu. mini uugu outawwee
「あなたが 上に なりなさい。 わたしが 上に なったら

sinnii minnii aldaakkeppoo xorkoo čigalliči
あなたと わたしの あいだで つなを かれらはぎります。」と

- uččinindəə. mimbeeməli gajjiči. simbee
 言ったと。 「わたしだけを かれらはつれてかえます。 あなたを
- waariči. anaa bii uugu əsiw osi uččinindəə
 かれらは殺します。」 「いや わしは 上に ならない。」と 言ったと、
- 145 sii uugu osu. aisim xunaaptum tupuligəčči
 「あなたが 上に なりなさい。」 金の ゆびわを はずして
- naalakkeeni gidalexandaa. əəktəə uugujjii məəpi
 かれの手に かの女ははめたと。 おんなを 上に 自分を
- pəduujjii uixəndə geuxaatu. uisəi xorkoo
 下に しばったと、 ゲオハートは。 上へ つなを
- toonisinda. uwweeduu toondujjičindaa. čii
 なんども引くんだと。 上から 引きもどすんだと。 どんどん
- toondujjičinda. əəktəə toondoočindaa. əəktəə
 引きもどすんだと。 おんなを 引きもどしたと。 おんなと
- 150 geuxaattu aldaakkeeni təkətə čigaligačinda xorkoo.
 ゲオハートとの あいだで ぶつとり きたと、 つなを。
- geuxaat čingəəp ambaŋub utəkkeeni
 ゲオハートは ずっとまえの 自分の相手した怪物の 戸口を
- miččillee saaduxanindaa. amba tuulədun geed
 這っているとき われにかえたと。 怪物の 戸口のもとに 一つの
- səəgdə məəkkuu geed taagda məəkku biččinindəə. səəgdə
 赤い 水と 一つの 白い 水とが あったと。 赤い
- məəkki čimutəəm gidalexandaa. činguram čigadaxanda. taagda
 水へ こゆびを 入れたと。 おれて きれたと。 白い
- 155 məəkki gidalexandaa. kopildur xooduxanda. taagda
 水へ 入れたと。 すぐ もとどおりなおったと。 白い
- məə umixanda. məənə xaaan biččimbiŋəči ulinga
 水を のんだと。 自分が ずっとまえに そうだったように よく
- oččinda geuxaatu. čaa amba duktaini iixəninindəə.
 なったと、 ゲオハートは。 その 怪物の いえへ 入ったと。
- xai čiiŋgeewəniijjuu xai čiiŋgeewəniijjuu
 なにが 小声でなくのだろうか なにが 小声でなくのだろうか
- dooljixandaa. xooniddaa dooljējini bookkeel
 なにかおとを きいたと。 どんなに きいても そとの方で
- 160 uisinindəə. bootoi nəədugəət dooljējini dugjeel
 おとがするんだと。 そとへ もどって出て きくと いえの方で

uisinindəə.	čakkii	kargaxanindaa.	geeda	tuuru	
おとがするんだと。	そっちを	みわたしたと。	一本の	はしらが	
biinindəə.	tar	tuuru	daatanduni	nari	girapsan
あるんだと。	その	はしらの	ねもとに	人間の	ほねが
əksəm	biinində.	čaa	tuurroo	uisai	itəxəninindəə.
うずたかく	あるんだと。	その	はしらを	見上げて	みたと。
geedanneep	katarapul	biinindəə.	tuuru		
ひとりのひとを	からげてしばって	あるんだと。	はしらに		
baarun	čakčəŋ	katarapula.	girapsab	baaruni	165
むかって	かたく	からげてしばってある。	ほねばかりになって		
čakčəŋ	xoldoxondoo.	isalmali	ujjuundə.		
かたく	かわいていたと。	目ばかり	いきているんだと。		
kəsənji	⁵⁹⁾ kəsənji	sulagəə	nərinində.	andaa	
かれのことばが	かれのことばが	やっと	出るんだと。	「友よ、	
mimbee	xuriroo	uččinindəə.	geuxaatu	atuxanindaa.	
わたしを	たすけてくれ」と	言ったと。	ゲオハートは	といたと。	
atugat	taagda	məə	ummooččininda.	xaalan	biččim
といて	白い	水を	のませたと。	ずっとまえに	そうだった
uwweekkeeni	uling	oččindaa	tar	nari.	xuraduxanda.
以上に	よく	なったと、	その	ひとは。	いきかえったと。
andaa	xawasai	nənneseə	uččinindəə	geuxaatutai.	
「友よ、	どっちへ	行くか」と	言ったと、	ゲオハートへ。	
xawasaidəə	nənnəew	anaa	uččinindəə.	mini	
「どっちへも、	おれの行くところは	ない」と	言ったと。	「おれの	
duktaiwwee	nənnesuu	uččinində.	⁶⁰⁾ gəə	nənnesuu.	čii
いえへ	行こう」と	言ったと。	「さあ	行こう。」	どんどん
nənəəčindəə.	čii	nənəmjee	geeda	uni	
かれらは行くんだと。	ずーっと	行ってから	一つの	かわの	
kiraduni	dəruppigəčindəə.	mini	amittaiwwee		175
きしで	やすんだと。	「おれの	おやじと		
ənittaiwwee	nənəutəppəə	min	puttəbəwwee		
おふくろのところへ	われわれが行ったら	『わしの	こどもを		

59) kəsənji をくりかえしているが kəsəni 《かれのことばは》とあるの がいい (佐藤による)。

60) ゲオハートが言ったことば (佐藤による)。

- xurixandulli xaiwa galleesigə unjilit taani. aisimbaamal
たすけたかわりに なにを ほしいか』と 言うだろう。『金ばかりを
- tunda poroxootu dauwan galleesii unjilit taani.
五隻の 汽船 分 ほしいか』と 言うだろう。
- əsiw gəlləə ussəəri uččinindəə. məɣumbəəməl
『おれはほしくない』と 言え。」と 言ったと。 『銀ばかりを
- 180 tunda poroxootu dauwan galleesii unjilit taan.
五隻の 汽船 分 ほしいか』と 言うだろう。
- əsiw gəlləə ⁶¹⁾uss ussəəri uččinindəə. mini
『おれはほしくない』と 言 言え。」と 言ったと。 「おれの
- amimbii ənimbi aldaakkeeči nuuksəəməl səwə biini
おやじと おふくろの あいだに すすだらけの 神像が ある」と
- uččinindəə. čawa gəlleew ussəəri uččinindəə. tawasai
言ったと。 『それを ほしい』と 言え。」と 言ったと。 『そっちを
- nunjičissəəri. mini amimbii ənimbi jilleer pəisəi
ゆびさせ。 おれの おやじと おふくろが あたまを 下へ
- 185 tugbilit taan. mini ɳaaladuɰ dapagačči andaa bala
ふせるだろう。 おれの 手を つかんで 『友よ、 はやく
- ɳənnisu um jeelasi ⁶²⁾jeelač
帰ろう』と 言って 同行するようさそう 同行するようさそった
- jeelatuttaar uččinindəə. čadu mini
同行するようさそえ。」と 言ったと。 「そのとき おれの
- ənimbi ilirraa səwəmbi təktes
おふくろが 立つなり 自分の神像を ぶつつり
- xətundəə sittəi bəərili taan. čaa səwəmbə
ひっぱってきってすぐ おまえへ くれるだろう。 その 神像を
- 190 ɔltəkki gidalaɣat bultai tuksam ɳənuussəəri
自分のふところへ 入れて 一生懸命 走って 帰ろ。」と
- uččinindəə. tamačču jiiin urəktə čigalixanindaa.
言ったと。 それから 四本の やなぎの棒を ぎったと。
- liɳas tupindaa geuxaat bəɣjini panataini liɳas
びったり つばをして ゲオハートの あしの うらへ びったり

61) uss と言いかけてあらためて ussəəri と言っている (佐藤による)。

62) Jeelasi と言い、また Jeelači と言い、つぎに jeelatuttaar (=jeelatuttaari) と言いなおしている (佐藤による)。

- daksauččinindaa. dөө panataini dөө urəktə
はりつけたと。 ふたつの あしのうらへ 二本の やなぎの棒を
- daksauččininda. tamačču mөөn bəgʲib panataini dөө
はりつけたと。 それから 自分の あしの うらへ ふたつの
- panataini dөө urəktə daksauččinindaa. jəə 195
あしのうらへ 二本の やなぎの棒を はりつけたと。 「この
- urəktəji jəə nammoo daurisuu uččinində. ee
やなぎの棒で この 海を わたろう」と 言ったと。 「いやだ、
- ŋəələpse. xoon dauguriga uččində
おそろしい。 どのようにして わたるのか、」と 言ったと、
- jəə urəktəji jəə nammoo. ajaa 63)
「この やなぎの棒で この 海を。」 「できるよ、 できるよ」と
ajaa
- uččinində. ŋaaladuni dapagačč čisaxanindaa. 64)
言ったと。 かれの手を つかんで 沖へのり出したと。 「やあ
- səbdənnē. piččəm čissečindaa nammoo taisai. 200
おもしろいなあ。」 ずんずん のり出て行くと、 海を おきへ。
- namu bajjeepani aaptugačindaa. tari nari duktain
海の むこう岸に ついたと。 その ひとの いえへ
- ŋənəččində. aminnii əninni bultai agjeečindaa.
行つたと。 かれの父と 母が 大変 よろこんでいるんだと。
- mini puttəbəwwee xurixandulli xaiwa gəlleesigə
「わしの こどもを たすけたかわりに なにを ほしいか」と
- uččičində. aisimbaamal tunda poroxootu dauwan gəlleesii.
言ったと。 「金ばかりを 五隻の 汽船 分 ほしいか。」
- əsiw gəlləə uččinində. mənəmbəməl tunda poroxootu 205
「おれはほしくない」と 言ったと。 「銀ばかりを 五隻の 汽船
- dauwan gəlleesii. əsiw gəlləə uččinində. dөө
分 ほしいか。」 「おれはほしくない」と 言ったと。 ふたりの
- aldaakkeet geed nuuksəməl səwə biinində.
あいだに 一つの すすだらけの 神像が あるんだと。
- čawa gəlleew uččinində. tawasai nuŋjičixəndə.
「それを おれはほしい」と 言ったと。 そっちを ゆびさしたと。

63) わたることができる (dauguri aja) の意 (佐藤による)。

64) 水の表面をあるいての意 (佐藤による)。

- jilleeri pəisəi tugbugəčindəə. Jeew
自分たちのあたまを 下へ ふせたと。 自分のあいぼうの
- 210 naaladuni dapaxandaa. andaa bala ɲənnisu uččininda.
手をつかんだと。「友よ はやく かえろう」と 言ったと。
- ənini ilirraa səwəmbi təktəs xətundəə
かれの母が 立つなり 自分の神像を ぶつつり ひっぱってきつてすぐ
- bəəxənindəə. geuxaat čaa səwəmbə ɵltək
くれたと。 ゲオハートは その 神像を 自分のふところへ
- gidalarraa bultai tuksam ɲənninindəə. čii
入れるなり 一生懸命 走って かえるんだと。 ずーっと
- ɲənumjee geeda mapaačcam ataalexandaa. ənəjee
かえってから ひとりの じいさんに 会ったと。 やあ
- 215 mapaat bilaatuni aɲaane. xoottɔi maxa gupipindəin
じいさんの 布ぎれは いいなあ。 どんなようにか ちよっとふると
- xotto jaam agbinjinindaa. nari mastaa
まちが いえが立ちならんで あらわれるんだと。 ひとが 大変
- bara agbinjičinda. saldaa moiččan kičorok
たくさん あらわれるんだと。 兵隊が 鉄砲を 林立させて
- agbinjičindaa. mapaačcaa bilaattoosi jəə səwəɲi
あらわれるんだと。「じいさんよ、 あんたの布ぎれを この 神像と
- dugəlisuu uččinindəə. gəə dugəlisuu.
とりかえよう」と 言ったと。 「さあ とりかえよう。」
- 220 dugəlixəndəə. tar mapaat čaa səwəmbi
かれらはとりかえたと。 その じいさんは その 自分の神像を
- ɵltəkki gidəlagat bultai tuksam ɲənninindəə.
自分のふところへ 入れて 一生懸命 走って かえるんだと。
- geuxaat tar mapaat bilaattoon gupipiččinindəə.
ゲオハートは その じいさんの 布ぎれを ちよっとふるったと。
- xotto jaam agbiččičindaa. nari mastaa bara
まちが いえが立ちならんで あらわれたと。 ひとが 大変 たくさん
- agbiččičinda. saldaa moiččan kičorok agbiččičinda. tari
あらわれたと。 兵隊が 鉄砲を 林立させて あらわれたと。「あの
- 225 mapaačča səwəmbəwwee gaddookka uččinindəə.
じいさんが おれの神像を もってかえりかけている」と 言ったと。
- gaattagaččeeri bəəddusu. gaattagaččeeri
「とりに行ってきて おまえらとりかえしてくれ。」 とりに行ってきて

bөөдугəčindəə. tamaččuу bilaatubbii səwəmbii
とりかえしてくれたと。それから 自分の布ぎれと 神像とを

əltəkki gidalaḡat čii ḡənninindəə geuxaatu.
自分のふところへ 入れて どんどん かえるんだと、ゲオハートは。

gočiddaa geed mapaaččam ataaliḡanindaa. ənəjje mapaat
またも ひとりの じいさんに 会ったと。 やあ じいさんの

činəpun ajjaanec. xoottoi maxa muripindain xotto 230
つえは いいなあ。 どのようなに か ちよっとねじると まちが

jaam agbinjičindaa. nari mastaa bara
いえがたちならんで あらわれるんだと。 ひとが 大変 たくさん

agbinjičinda. saldaa moiččan kičorok agbinjičindaa.
あらわれるんだと。 兵隊が 鉄砲を 林立させて あらわれるんだと。

mapaaččaa činəpumbəsi jə səwənji dugəlisuu
「じいさんよ、 あんたのつえを この 神像と とりかえよう」と

uččinində. ḡəə dugəlisuu. dugəlixəninində. tar
言ったと。 「さあ とりかえよう。」 かれらはとりかえたと。 その

mapaat əltəkki gidalarraa bultai tuksam 235
じいさんは 自分のふところへ 入れると 一生懸命 走って

ḡənəxəninində. tar mapaaččaa činəpumbəni muripiččindaa.
行ったと。 その じいさんの つえを ちよっとねじったと。

ənəjje xotto jaam agbiččəninindaa. nari
やあ まちが いえがたちならんで あらわれたと。 ひとが

mastaa bara agbiččəičinda. saldaa moiččan kičorok
大変 たくさん あらわれたと。 兵隊が 鉄砲を 林立させて

agbijjičindaa. tar mapaaččaa mini səwəmbəw
あらわれたと。 「あの じいさんは おれの 神像を

gaddookka uččinində. gaattagaččeeeri 240
もってかえりかけている」と 言ったと。 「とりに行ってきた

bөөddusu. gaattarraa bөөдугəčindəə.
おまえらとりかえしてくれ。」 とりに行ってきてすぐ とりかえしてく

tamaččuу ⁶⁵⁾ səwə səwəmbi əltəkki
れたと。 それから 神像 自分の神像を 自分のふところへ

gidaladugačč čii ḡənninindəə čaa činəpun
また入れて どんどん かえるんだと、 その つえを

65) səwə と言ってつぎに səwəmbi と言いなおしている (佐藤による)。

- čīnapuləgəčči. čīnagəəp oroktom duktak ŋənuxənindəə.
 ついて。 ずっとまえの くさぶきの 自分のいえへ かえったと。
- 245 xottonneeni iččeečindəə. xaalan bučči geuxaatu
 まちのひとが みているんだと。ずっとまえに 死んだ ゲオハートの
- tawan səgdədəə biinindəə. mœəkkeenneeni
 いろり火が けむりをたてて いるんだと。 海神(水人)である
- ⁶⁶⁾ asini uččinindəə. čīnagəənee sini xurigasi
 かれの妻が 言ったと。 「ずっとまえに あんたの たすけた
- əktə čīmanaa nari gəjiči inəŋi uččinindəə.
 おんなを あしたひとが もらう 日です」と 言ったと。
- sugaibbaan dəpčiči uččinində. ŋənəpee
 「その婚礼の御馳走をひとびとはたべます」と 言ったと。「行ったら
- ⁶⁷⁾ 250 ar arakkee xərəlœəkkutənee mətək aaptuutənee
 さ 酒を まわしたら 自分のところへ ついたら
- urumukkəən taldaak umigačči urumukkəduni urumukkən
 コップを まんなかまで のんで コップに コップの
- pərgduni aisim xunaptumbani əksəgəčči bœədusəəri
 底に 金の ゆびわを おいて かえしてやりなさい」と
- uččinindəə. čīmanaan nari gaanigačindaa. ŋənəxənindəə
 言ったと。 あくる日ひとが 迎えに行ったと。 行ったと;
- geuxaatu. ədə duktain iixənində. ənəjee nari
 ゲオハートは。 王さまの いえへ 入ったと。 やあひとが
- 255 baračči mastaa bara nari biičindəə. čīnagəə
 大勢 大変 たくさんのひとが いるんだと。 ずっとまえに
- noonduni gəsə puliči nari ədə xoldonduni
 そのかれと 一緒に 行ったひとが 王さまの わきに
- təsinindəə. nari duwweet təxənindəə geuxaatu.
 すわっているんだと。 ひとの うしろに すわったと、 ゲオハートは。
- ⁶⁸⁾ tari əktə an andaxxaa andaxarreenindaa. arakkee
 その おんなは きゃ 客を もてなしているんだと。 酒を

66) これはゲオハートが手に入れた神像である。ゲオハートが助けた男とその親の老夫婦は海神(水人)(mœəkkeenneeni)であり、その神像もその老人のむすめであった。その神像が人間のすがたとなってゲオハートの妻となった。(以上佐藤による。)

67) ar と言いかけてあらためて arakkee と言っている(佐藤による)。

68) an と言いかけてあらためて andaxxaa と言っている(佐藤による)。

sirrininda.		geuxaatutai	aaptuxanindaa.	
かの女はつぐんだと。	コップが	ゲオハートに	わたったと。	
bøexenindæ	urumukkæ.	koop	umixanindaa.	260
かの女はくれたと、	コップを。	ぐっと一気に	のんだと。	
laussee	dapaduxaninda.	gočiddaa	sirrinindaa.	
ちからをこめて	かの女はとりかえしたと。	までも	つぐんだと。	
geuxaatutai	aaptuxaninda.	gočiddaa	bøexenindæ.	čadoo
ゲオハートに	わたったと。	までも	くれたと。	そのときやっ
doonduxaninda.	urumukkæn	taldaak	umigačči	
思い出したと。	かの女のコップを	まんなかまで	のんで	
urumukkæn	pəragduni	əksəgəčč	bøeduxandæ	aisim
かの女のコップの	底に	おいて	かえしてやったと、	金の
xunaaptumban.	amittakki	iraxanindaa.		265
ゆびわを。	自分の父のところへ	かの女はもって行ったと。		
amma	ər	xaiga	uččinindæ.	saa xaidu
「父上よ、	これは	なんですか」と	言ったと。	「どれ どこに
biinigə	uččinindæ.	geuxaatumba	ŋaaladuni	əldəmi
いるか」と	言ったと。	ゲオハートを	かれの手を	とって
iraxanindaa.	mimbee	xurixa nari	ərigə	
つれて行ったと。	「わたしを	たすけた	ひとは	このひとなんです」と
uččinindæ.	tari	⁶⁹⁾ nari	jilləččinindæ	ambamba mæn
言ったと。	その	ひとは	うそをついたと、	「怪物を 自分で
⁷⁰⁾ xurixam	umi	əəktæ	gabujji.	270
わたくしがたすけた」と	言って	おんなを	自分がもらうために。	
čaa	narree	waagoom	uččinindæ	ədə. geuxaatu
その	ひとを	殺すように	言ったと、	王さまは。ゲオハートは
əəktæ	miirəmbujjinindæ.	miirəmbudum		
おんなを	よめさんにもらってつれて行くんだと。	よめさんにもらっ		
	ŋənuxeninda.	geuxaatu	oroktom	duŋni
てつれて	かえったと。	ゲオハートの	くさぶぎの	いえが
bajjeetaali	xotto	oččinindaa.	məəkkeeneneeni	
むかいあいの	ふたつの	まちに	なったと。	海神の

69) いつかゲオハートをつなを切っておとした人をさす (佐藤による)。

70) xurixam (=xurixambi) は waaxambi 《わたくしが殺した》の言いあやまり (佐藤による)。

275 asini bajjeetaali xottombo andučinindaa. geuxaatu
かれの妻が むかいあいの まちを つくったんだと。ゲオハートは

časi bajaččinindaa. orki geuxaatu dēθji asilaxaninda.
大変 裕福になったと。貧賤の ゲオハートが ふたり 妻を娶ったと。

ada mōekkeenneen asseen gələndəuččinindəə.
王さまは 海神の かれの妻を ほしいと言いに行かせたと。

xaljee irənčə⁷¹⁾ uččinindəə əsiw
かれの妻は 「ハルジェー イランチャー」と 言ったと、「わたしは

ḡənnəə. xaljee irənčəə
行きません。」 王さまは 「ハルジェー イランチャーとは

280 xamačigaga um panunnooččinindaa.
どんなものか」と 言って たずねに行かせたと。ゲオハートの妻は

nučiik xuldaamba bəθxəndəə aisim xuldaamba. xaljee
ちっちゃい 小箱を くれたと、 金の 小箱を。「ハルジェー

irənčəə əməčigə uččinindəə.
イランチャーとは こういうものです」と 言ったと。 使者が

ədəttai iraduxanda.⁷²⁾ kuptamban
王さまのところへ もって行ったと。 王さまは それのふたを

niixəninđəə. gəəm tauluxaninda.⁷³⁾ čikəə biččində gorop
あけたと。 全部 火事になったと。 それだけだったと、 むかしの

285 saxuri.
ものがたりは。

71) xaljee irənčəə とは 王様が はじを かくの意だという (佐藤による)。xaljee-
《はじをかく》。

72) iraduxani は 王様のものを かえしにもって 行っ ったの意となる。ここは iraxani
《かれがもって 行 った、とどけた》とあるの がいい (佐藤による)。

73) 王様 (ada) の まち (xotto) が 火事になっ てやけて しまっ った意 (佐藤による)。